

被災地の子どもたちへの支援に対し、文部科学省より感謝状を贈呈されました

INFORMATION

千葉大学は、東日本大震災における復興支援の一環として文部科学省が運営していた「東日本大震災・子ども学び支援ポータルサイト」を利用し、被災地への支援を行ったことから、文部科学省より感謝状を贈呈されました。

「東日本大震災・子ども学び支援ポータルサイト」は、東日本大震災の被災地の学校などで現在どのような支援を必要としているかを掲載するとともに、支援を検討している学校などが何を支援できるかを登録することにより、被災地支援が円滑に行われるよう文部科学省が立ち上げたものです。本学では、教育学部各附属学校を中心に、このポータルサイトに多くの物資を登録し、被災地への支援を行ってきました。

防災訓練を実施

EVENT



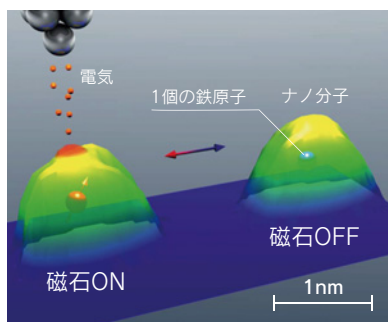
千葉大学では6月27日、教職員および学生が防災に関する知識を得るとともに、災害時の対応を適切にとれるよう実地体験も交えた防災講習会を実施しました。

当日は教職員に学生も含め約130名の参加があり、上野防災危機対策室長による講演、防災ビデオの放映、今関総合安全衛生管理機構長によるAEDに関する説明、実技講習が行われました。

別会場では、起震車や煙ハウスを体験できる場が設けられ、こちらも多くの学生、教職員らが参加。「まったく身動きがとれなかった」「今後、起こりうる災害の準備をするための参考になった」といった声が寄せられました。

1個の鉄原子で情報記録に成功！ ～世界最小・ナノ分子磁気メモリ～

INNOVATION



大学院融合科学研究科ナノサイエンス専攻の山田豊和特任准教授らを中心とした国際共同研究チームにより、ナノ分子中の1個の鉄原子で情報の記録が可能であることが実証されました。本研究結果により、パソコンをはじめとする情報記録を担う磁石として1個の鉄原子でもナノ分子とすることで利用できることがわかりました。今後、実用化されれば世界最小の磁気記録メモリとなり、記録密度は、現在最小のハードディスクドライブ(HDD)の約千倍に相当することです。

21w 音楽の楽しさを伝える ～自分だけの音楽の世界～

EVENT

「音楽の楽しさを伝える、自分だけの音楽の世界」

21w 音楽の楽しさを伝える、自分だけの音楽の世界

「音楽の楽しさを伝える、自分だけの音楽の世界」

教育学部4年生 谷 一步(たに・はつほ)さん (小学校教員養成課程理科選修)

表紙の人



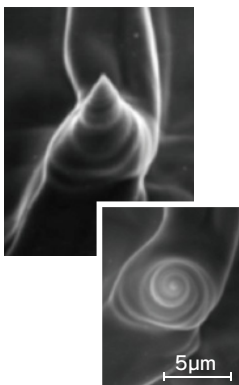
谷さんの活躍は、オフィシャルブログでチェック!
<http://ameblo.jp/hachiippon/>

2011年ミスちば大学で準グランプリを獲得した谷さん。実は、学業のかたわらタレントとしても活躍中。バラエティ番組やテレビドラマに出演しています。

今回は、特集で紹介した附属図書館の前で撮影したニューラルについて感想を聞くと、「モダンなデザインが素敵ですし、いろいろな学習の可能性が秘められているところのこと。ちなみに、西千葉キャンパスでのお気に入りの場所は四季が感じられる並木道でした。」

レーザー光を活用し、 世界最小の螺旋針を開発

INNOVATION



大学院融合科学研究科尾松孝茂教授の研究グループが、独自に開発した螺旋状の光の渦を照射する「光渦レーザー」を使用し、世界最小の螺旋状の金属針を開発することに成功しました。

これまでの技術で小さな針をつくるには、真空状態や化学薬品が必要でしたが、新技術は省エネルギーで薬品を使わないため環境に優しく、大量生産が可能になることもあり各分野での応用が期待されます。

学長の部屋

齋藤康学長
一問一答

齋藤学長と学生たちの交流の場として誕生した当コーナー。第1回は、齋藤学長の素顔を知っていただくために、ご自身の性格からプライベート、千葉大生の印象などをお聞きしました。

座右の銘は

「降るような愛を注ぐ」。博士号を取得して研究を始めようとしていたとき、「博士」の研究のご指導をいただいた先生から贈られた言葉。これから研究をしていく若い世代の仲間と共に生きるとき心の構えとしていただきました。

自分の性格は
「楽しければ何でもいい」と思える性格というのがよく表現しているように思います。どう見られているかはわかりません。

最近、感動したことは
直木賞受賞作家の辻村深月さんが千葉大学の卒業生であったこと。

注目している人物は

写真家、演出家の蛭川実花さん。芸術家特有のわかりにくさがないところがいい。



※写真は、実花さんの父・蛭川幸雄さん(演出家、映画監督、俳優)と撮った1枚

注目していることは
iPS細胞は本当に病気を治すだろうか」と注目しています。

趣味は

農作業と観劇(舞台)です。特に観劇は同じ原作から演出者によって異なった世界に導かれる魅力にひかれます。学問の表現も同じだと思います。

学長室では普段、 どんな仕事をしていますか

いわゆる公務といわれるもので、大学運営に関するすべてのことについて、教員、事務職員、学生、学外の方などから教えていただいたり、こちらからお伝えしたりすることで大半の時間が過ぎます。合間を縫って、好きな本を読んだり、CDで「涙そうそう」など聞くこともあります。

学生時代の思い出は

山登り(ワンダーフォーゲル部に属していました)。雪山の美しさに感動したのは忘れられません。自然の美しさです。



休日の過ごし方は

不器用なので、あまり休日を取れませんが、それほど困っていません。

「静かな千葉大生」と言われる所以かな。自分でも優秀だから。不満があっても優秀だから。自分で解決してしまう。それが

日課は

テーマは何でもいから、1人で考える1時間を1日1回どこかで持つこと。考えたことを人に語ることはありません。

考えるときの場所は

場所は問いません。物音がしないこと、話しかけられないこと、紙と鉛筆があるところ。

千葉大生の印象は

みんな優秀だから、聞くといろんな不満が聞こえることもあるが、大体自分で解決してしまっている印象がある。そのあたりが静かな千葉大生といわれる所以でしょうか。楽しそうにしているときの彼らは最高に素晴らしい。

学長室の こだわりの品は

巨人軍の坂本選手、長野選手とのツーショットの写真。



お気に入りの場所は

かたらいの森で、学生の集う姿が見えるとき。

学生に贈りたい言葉は

「もしあなたが先生の言うとおりにしか考えなかつたら、そのとき自分は何か考えていない」ということに気づいてほしい。この世の中に私という人間は私しかないことに誇りを持ってください。

千葉大学の個性とは

大学の個性とはすなわちどんな特徴があるかということだとしたら、「黙々と実績を積み上げる大学」ということになるでしょう。それだけ優秀な学生が集まっている大学ということができる。

『ちばだいプレス』に期待することは

「え! こんなことあるの、こんな人いたの」といわれるようなニュース性を示してほしい。

読者へのメッセージは

これを読んで、ぜひ千葉大学をより一層身近に感じてほしい。そして、「なかなかやるじゃない」と思ったら、自分もこの誌面に登場できるよう何かに挑戦してほしい。

